

松本千代栄研究 —舞踊発想と音楽

安村清美
大鋸桂子
岩川眞紀

1. 研究目的

舞踊と音楽の連合は、舞踊文化が本来的に抱える命題の一つである。同様に、舞踊教育にとっても、この本質的な問題の解明は欠かすことのできない事柄であろう。

本研究は、我が国において、舞踊教育を推進した研究・教育者、松本が、舞踊発想と創作のための音楽として、どのような内容を選択しその解釈を提出したのかを明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象

昭和28年から平成5年に、舞踊創作、作品のために創案・制作されたレコード・CDおよび解説；楽曲数531曲（再収録を含む）オリジナル曲数266曲

3. 研究結果と考察

舞踊発想—作曲—制作

楽曲制作のための手順は、創案者の発想を制作者、作曲者に提示、作曲試作、視聴、試技を通して演奏、吹き込み、完成に至り、企画—制作—完成のどの段階も、動きの発想と音楽の関連性に着目した創案—作曲—制作者の密なコミュニケーションの上に成立しているといえる。

創案曲の題名を自然、生活事象、思想・感情・抽象、その他の項目に分類すると、発達別には幼稚園から一般まで含み、分類の分布も偏りのないバランスの取れた創案になっている。

幼・小（低）は、動物・植物、遊び・スポーツ、人と生活の順に頻度が高く、「動物園」「買い物ごっこ」など模倣的な動きを曲の感じと重ね合わせて表現できるよう企図されていると考えられる。小（中・高）は、人と生活、自然現象、科学物質、動物・植物の順で頻度が高く、他の項目にも拡がり、「私達の村や町」「自然の威力」など生活経験や、学習内容の拡がり・深まりと対応して、題材選択の幅も拡大している。

中・高・一般では、思想・感情の頻度が高まり、続いて自然となる。（「私たちの詩集」「水の点描」など）この期の特性として、描写、写実的表現を経過して抽象、感覚的表現が実現されると考えられる。

また、舞踊の美的形成原理を底流においた活動を見通した動きからイメージへの接近の方向をもつ楽曲（「反復性とまとまり」「群のリズム」など）もみられ、イメージと動きの双方向性をもつ舞踊創案であることが認められた。

楽曲解説 イメージ・動き・はこび

楽曲解説の形式としてA楽譜と記述、B記述、C写真と記述の三種類に分けられる。Aは、音楽表現のイメージから自由な表現を、Bは、制作年月をおって学習指導、舞踊の構造、練習法に重点を置いた言語からダンスへの接近、Cは、他の表現文化を取り込んでの解説である。

解説文中より、感情と運動の関連を7 Motivesの基準に従って分析を試みた結果、発達に則した特徴が見出された。（s. 28～37創案、48曲）

幼・小（低）では、楽しいMv.を基調に、躍動的なMv.流れるようなMv.へと拡がりをもち、「小鳥ごっこ」など小（中・高）では、楽しいMv.流れるようなMv.鋭いMv.躍動的なMv.厳かなMv.寂しいMv.の順に頻度が高く、これらに基づいて一定の傾性と変化をもたせている。

（「機械」「昆虫の世界」など）中・高では、流れるようなMv.を基調に、楽しいMv.鋭いMv.躍動的なMv.厳かなMv.寂しいMv.と拡がりを見せながらその多くは異なるMotivの対比を際立たせることを特徴としている。（「海底の幻想」など）

これらの部分は、相互に柔軟に補完的、対立的関係をもつ、つまり音楽は部分を取り出しても、ある気分をもって踊り抜けるように配慮されており、部分の総和としての全体は、対象の発達に応じて関連する段落へと導かれ、はこび、構成の見通しがもてるように解説されている。小学校の段階では、音楽の構成にのった短い描写・写実的表現から筋をもつ劇的はこびへ（「楽しい日曜日」「大昔の生活」など）中学以上では、写実的なものから抽象、感覚的なものへと（「絵画の印象」など）作風にも拡がりをもつ。

舞踊発想と音楽の関連 創案者の特性

創案者は、音楽を創造活動の根底にふれた性格として活用すべきと述べ、これを具体化したものとしての多くの楽曲は、構想が拓かれるような発想、イメージ、運動が互いに関係づけられながら盛り込まれていることが判った。各楽曲は、洋楽器を中心に、和楽器、マリンバ、合唱、シンセサイザー等、多種の音構成で作曲、演奏され、詳しい音楽の解説と共に本創案の特徴と言える。また運動の側からの、リズムへの切り込み、他芸術とのコラボレーションへの試みもみられる。

舞踊の教育経験と、理論、研究の蓄積、加えて音楽的教養、感性を持った創案者によって成された、個性を発掘する舞踊創作のための音楽として意義をもつものと思われる。（各分析結果については、発表資料参照のこと）

尚、本研究にあたり、井上英二氏、相場了先生に貴重な資料をご提供いただきました。また、松本千代栄先生御本人からも多くの資料、御教示をいただきました。心より、感謝申し上げます。